第一回　国際農業工学レポート

忠犬ハチ公のエピソードについて書く前にまず、ハチ公の生涯についてまとめます。

ハチ公と上野博士の歴史

1923(大正 12 年)11-12 月頃

秋田県大館市の民家でハチが誕生

1924(大正 13 年)1 月

東大教授上野英三郎博士のもとに汽車で送られる。

同年 5 月頃から、渋谷駅や大学(駒場)に、毎日上野博士の送り迎えをするようになる。

1925(大正 14 年)5 月

上野博士が大学内で急逝。

この日、迎えに行ったハチは上野に会えず、上野の最後の着衣を置いた物置にこもって 3 日間何も食べなかった。

その後、毎日、朝夕に渋谷駅に通うようになる。

1932(昭和 7 年)

秋田犬の保存運動をしていた研究者の斎藤弘吉氏が、渋谷駅に毎日通う老犬のハチのことを朝日新聞に投稿して記事になり、ハチ公が世に知られることになった。

1934(昭和 9 年)

渋谷にハチ公の銅像ができる。

1935(昭和 10 年)3 月 8 日

ハチ公、渋谷にて死去。

(引用元:東大ハチ公物語

『 http://www.en.a.u-tokyo.ac.jp/hachi_ueno_hp/hp/prospectus.htm』)

この年表の中で、上野博士が秋田という遠い土地からなぜ犬をもらったのか疑問に思った。調べていくうちに、大館市のホームページにたどり着いた。そのページによると

ハチ公が生まれたちょうどそのころに、博士が純系の日本犬を探していた。それを聞きつけた博士の教え子世間瀬千代松氏が、ハチの飼い主斉藤氏の知り合いである部下の栗田礼蔵氏にハチをもらってくるように頼んだ。こうして博士のもとに届けられ、一緒に寝るほどかわいがられた。(引用元: 大館市『http://www.city.odate.akita.jp/』)

この話から、ハチと博士の出会いは偶然だったがハチに対する深い愛情や博士の人柄のよさを感じた。

また、ハチの死因であるフィラリアは蚊に媒介される病気でそうめん状の寄生虫フィラリアが心臓や肺に寄生することで呼吸不全やほかの臓器にも影響を与え衰弱死する病気である。以前は犬の死因の 30 パーセントを占めるほどの病気だった。